

しおんだより VOL.32



患者さんが退院できるようサポートします

当院にご入院されてくる理由は様々ですが、高齢者で介護を受けておられる方が少し体調を崩されたり急性期病院で治療を終えた後、転院されたりする方が多いです。

患者さんの体調を整えるためには、医師が正しく診断し、それに基づいて適切な輸液（点滴）や注射、飲み薬や貼り薬などを処方し、患者さんに適用していくことが基本になります。しかし、症状が治まったり、血液検査や画像検査が改善したりしても、それだけでは施設や自宅に退院するとは限りません。

入浴、食事、排泄などの日常生活の基本動作を、できるだけ自分で行えるようになれば、自宅に帰られる目処が立ったり、入所できる施設の幅が広がったりしていきます。座ったり、立ったり歩いたりすることのサポートする理学療法士と連携しながら、少しでもできる範囲を増やしていけるように、今日も、ベッドサイドに向かっていきます。患者さん一人一人が、自分の持てる力を最大限に活かして、自分らしい生活に戻れるようにチームで支えていくことは、当院の目指すチーム医療のあり方でもあります。

当院のリハビリ科には、20名の理学療法士、2名の言語聴覚士とともに、6名の作業療法士が在籍し、若い力で、患者さんとがんばっています。

当院では、医療系学生の実習受入を積極的に行っています

当院では、医療系の学生さんの病院実習の受入を積極的に行っています。

理学療法士、作業療法士、さらには、管理栄養士を目指す学生さんたちが、数週間、病棟で当院スタッフについて患者さんのもとに一緒におうかがいをして実習を行ったり、個別に指導を受けたりしています。

私が学生実習をしたのは、30年以上前になりますが、まだまだ着慣れない白衣を着て、病棟をうろうろすることで、専門職になる覚悟が固まって行ったような気がします。次世代の医療を担う若者を育てる機能を持つことも、病院にとっては大切なものなのだと思います。



教えることは、最高の学びだと思います。自分では理解しているつもりでもいざ、教えるとなると、きちんと調べ直します。それが大切だと思います。

薬学生の講義に、日帰りで青森まで出張に行ってきました…

先日、青森大学薬学部の講義に、青森に行っていました。本来なら前日に入り、地元の味覚でも楽しみたいと思っていたのですが、仕事の都合がどうしてもつかず、朝7時20分の飛行機で行って、90分×3コマの講義を担当したあと、夕方5時30分の便で帰るといって強行軍になりました。

早朝の大阪空港は慌ただしかったのですが、帰りの青森空港は少し時間の余裕があったので、せっかくだからと空港のフードコートで海鮮丼をいただきました。カニの入ったお味噌汁が熱々で、喋り疲れたこともあってか、適度な塩分が美味しかったです。そして、ゲートに入って売店にいくと、ソフトクリームの文字が…。思わず買ってしまいました。

プロペラ機で1時間半ぐらいですので、新幹線で東京に行くよりは時間は短いのですが、移動距離が長いことや移動速度が速いことは、やっぱり身体には負担になるのかなと思います。その夜はぐっすり眠りました。（文責：狭間研至）



すごく綺麗にできていたのもうちょっと眺めていたのですが、溶けそうなので、写真だけとって、すぐにいただきました！

しおんだより 第32号 発行日：令和5年6月15日

発行人：狭間研至 発行元：医療法人嘉健会 思温病院

☎557-0034 大阪市西成区松1-1-31 電話06-6657-3711 HP: www.shion-hp.or.jp